第24章 地域別の概要

1. ミャンマーの地域分類

ミャンマーの地域区分としては、カチン、カヤー、カレン、チン、モン、ラカイン、シャンの 7 州と、ザガイン、タニンタリー、バゴー、マグウェー、マンダレー、ヤンゴン、エヤワディの 7 管区に加え、連邦直轄区域であるネーピードーがあり、統計もこれら 15 地域の分類に基づき発表されている（図表 24-1）。

図表 24-1　ミャンマーの地域区分

（出所）Population and Housing Census of Myanmar, 2014 (Provisional Results)より作成

ミャンマーの国土面積は約 68 万 km²（日本の約 1.8 倍）であり、最も人口の多い地域であるヤンゴン管区には 10,171 km²に約 736 万人（ミャンマー全体の 14.3%）が占め、人口密度は 724 人/km²となっている。

ヤンゴン管区に次いで人口が多いのが、ヤンゴン管区のすぐ西に位置するエヤワディ管区で約 618 万人、ヤンゴン管区の北方に位置するマンダレー管区で約 616 万人と、国土全体の約 11%しかないこれら 3 地域でミャンマー全体の人口の 4 割近くを占める。

図表 24-2　地域毎の面積、人口、人口密度

地域	人口（人）	全国に占める人口割合	面積（km²）	人口密度（人/km²）
カチン州	1,689,441	3.3%	89,039	19
カヤー州	286,627	0.6%	11,731	24
カレン州	1,574,079	3.1%	30,385	52
チン州	478,801	0.9%	36,072	13
ザガイン管区	5,325,347	10.3%	94,621	56
タニンタリー管区	1,408,401	2.7%	43,343	32
バゴー管区	4,867,373	9.5%	39,405	124
マグウェー管区	3,917,055	7.6%	44,819	87
マンダレー管区	6,165,723	12.0%	29,686	208
モン州	2,054,393	4.0%	12,296	167
ラカイン州	3,188,807	6.2%	36,778	87
ヤンゴン管区	7,360,703	14.3%	10,171	724
シャン州	5,824,432	11.3%	155,458	37
エヤワディ管区	6,184,829	12.0%	35,964	172
ネーピードー	1,160,242	2.3%	7,054	164
全国	51,486,253	100.0%	676,822	76

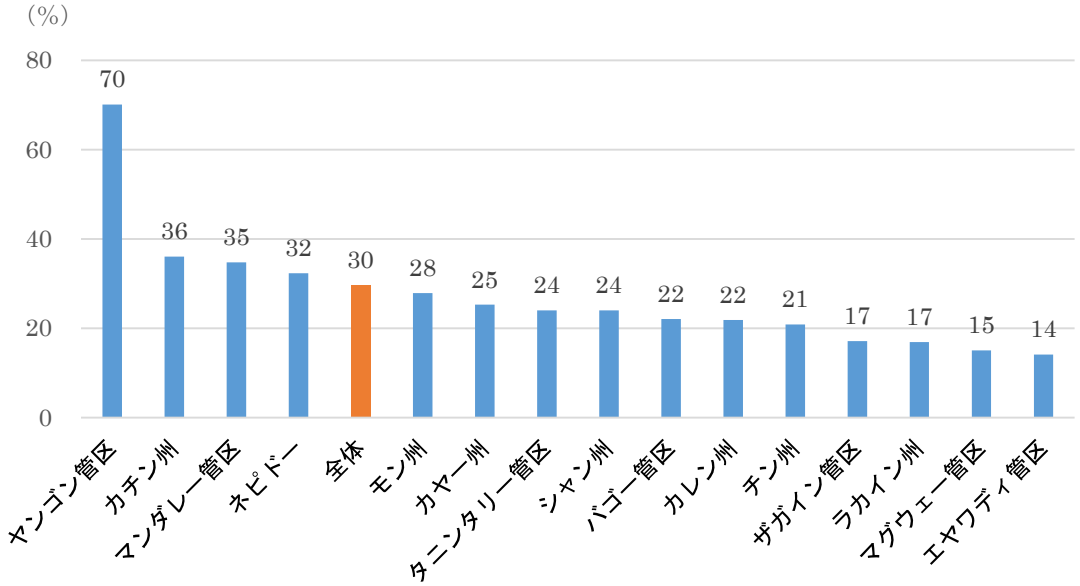
（出所）Overview of the Result of the 2014 Population and Housing Census, Myanmar (December 2017) より作成

2014 年に行われたセンサスによると、ミャンマーの一人当たり GDP は 1,207 ドルであり、これを上回る地域は、ヤンゴン管区、タニンタリー管区、マグウェー管区の 3 地域のみとなっており、経済規模をみると、ヤンゴン管区とその他の地域での格差が大きく、一人当たり GDP が 1,000 ドルを下回る地域も多く存在する。

2. 地域別の都市化率

地域別の都市人口の割合をみると、ヤンゴン管区では都市人口が約 70%占めるのに対し、その他の地域では、都市人口比率が 10%～40%程度であり、地方人口の方が多く、ヤンゴン管区ほどには都市化が進んでいないことが分かる。

図表 24-3　地域別の都市人口比率



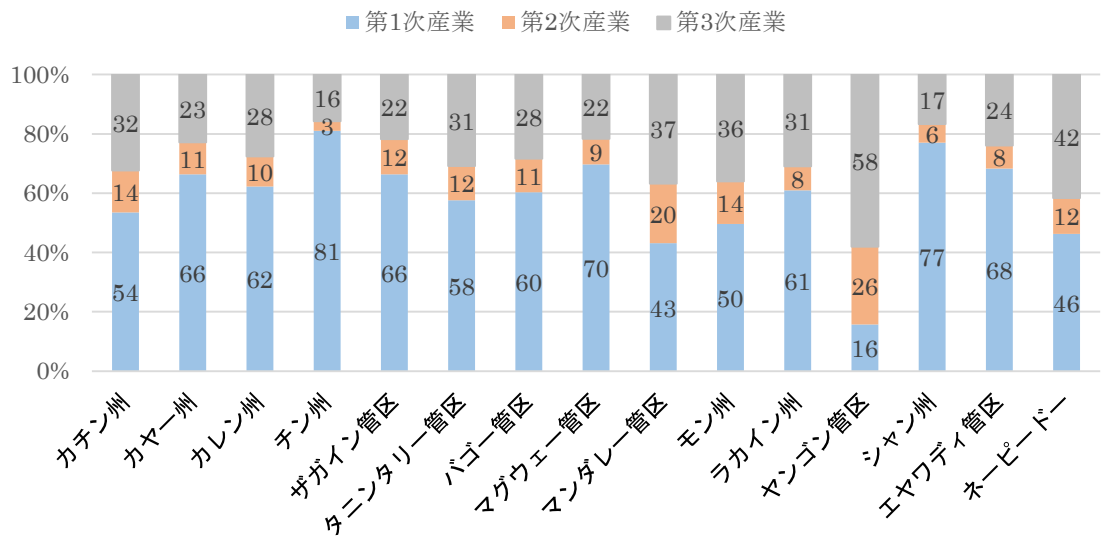
（出所）Overview of the Result of the 2014 Population and Housing Census, Myanmar (December 2017) より作成

3. 産業別の労働人口割合

最も経済規模の大きい地域であるヤンゴン管区では、第 3 次産業の労働人口割合が最も多く、全体の約 58%を占めており、次いで首都であるネーピードーでは約 42%を占めている。また、第 2 次産業の割合をみると、ヤンゴン管区の 26%が最も多く、次いでマンダレー管区で約 20%を占めている。

ミャンマー全体でみると約半数の労働者が第 1 次産業に従事しており、ヤンゴン管区を除く地域では、第 1 次産業の占める割合が最も多い。特に、シャン州では約 77%まで上っていることが分かる。

図表 24-4　産業別の労働人口割合



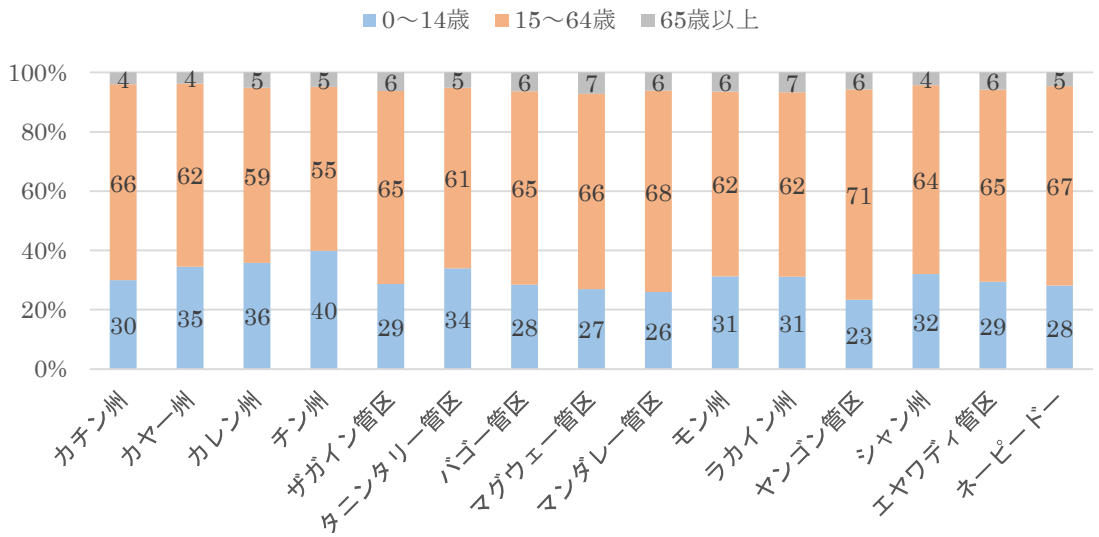
（出所）Overview of the Result of the 2014 Population and Housing Census, Myanmar (December 2017) より作成

4. 年齢別の人口割合

ミャンマーの平均年齢は 27 歳であり、年少人口（0～14 歳）の割合が約 29%、生産年齢人口（15～64 歳）の割合が約 66%、65 歳以上人口の割合が約 6%となっている。

地域ごとに大きな差はみられないものの、人口が最も多いヤンゴン管区では生産年齢人口の占める割合が唯一 7 割を超えていることが分かる。

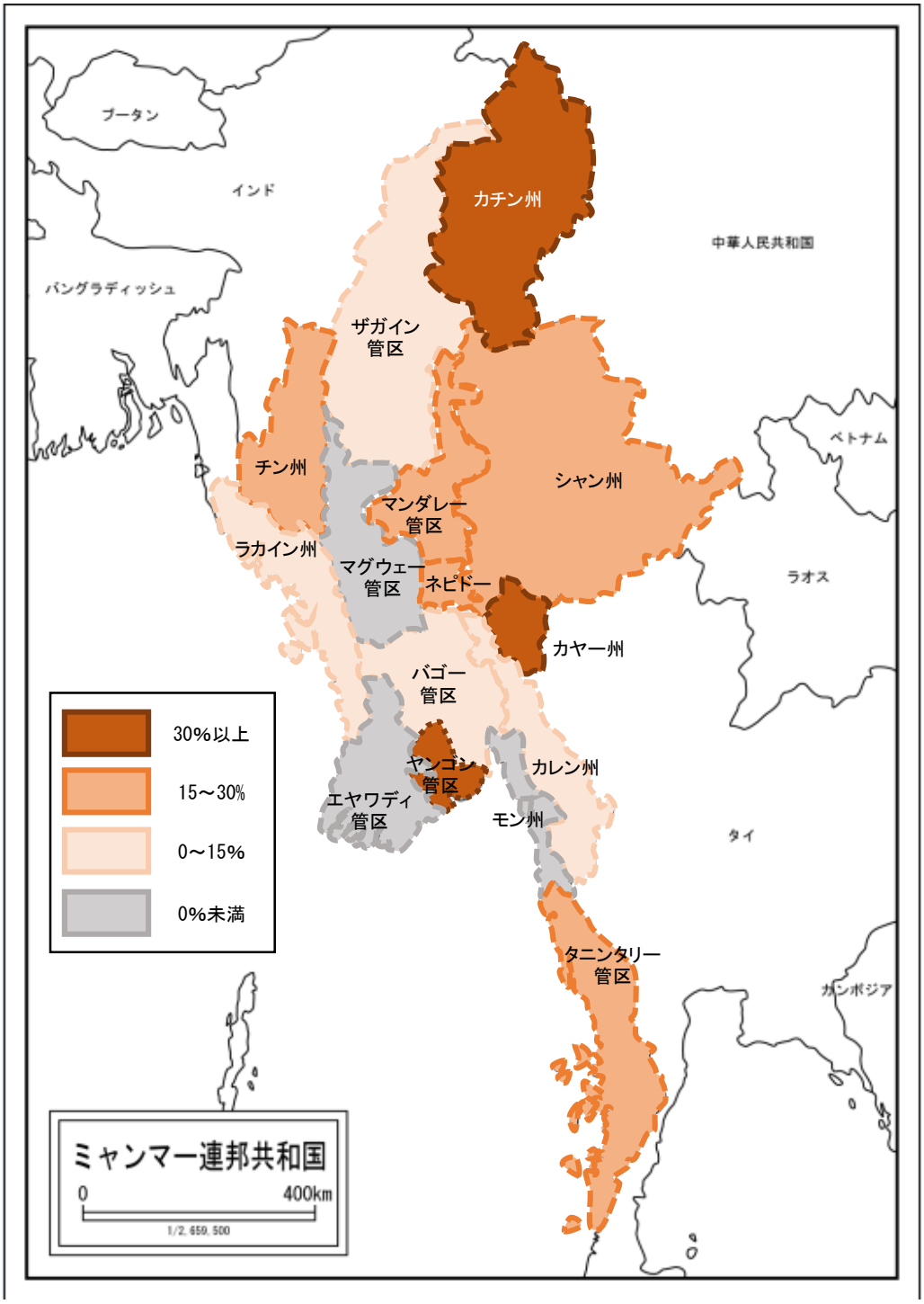
図表 24-5　年齢別の人口割合



（出所）Overview of the Result of the 2014 Population and Housing Census, Myanmar (December 2017) より作成

また、地域別の将来人口増減予測をみると、最も人口が増加すると見込まれているのはヤンゴン管区（＋約 43%）であり、次いで、カヤー州（＋約 40%）、カチン州（＋約 35%）となっている。一方で、マグウェー管区、モン州、エヤワディ管区では、人口が減少すると予測され、中でもモン州は約 8%の減少が見込まれている。

図表 24-6　将来人口増加率（2014 年→2031 年）

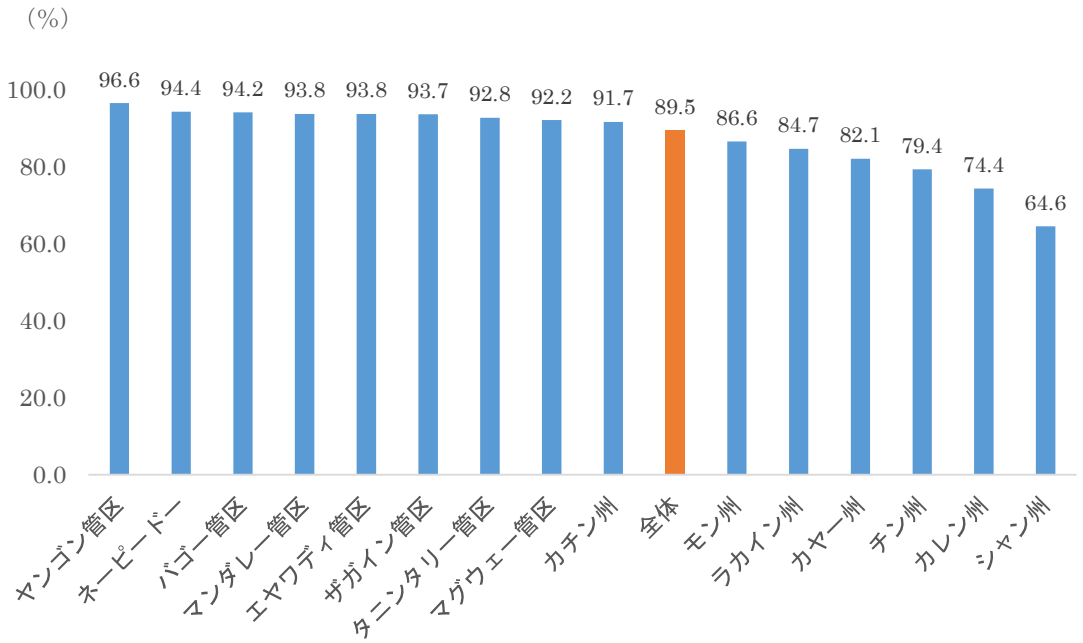


（出所）Overview of the Result of the 2014 Population and Housing Census, Myanmar (December 2017) より作成

5. 地域別の識字率

地域別の成人識字率をみると、ミャンマー全体で 89.5%であるのに対して、ヤンゴンを筆頭に 9 地域が 90%以上となっている。一方で、その他の 6 地域は 90%未満であり、特にシャン州は 64.6%と最も低い数値となっている。

図表 24-7　地域別の成人識字率

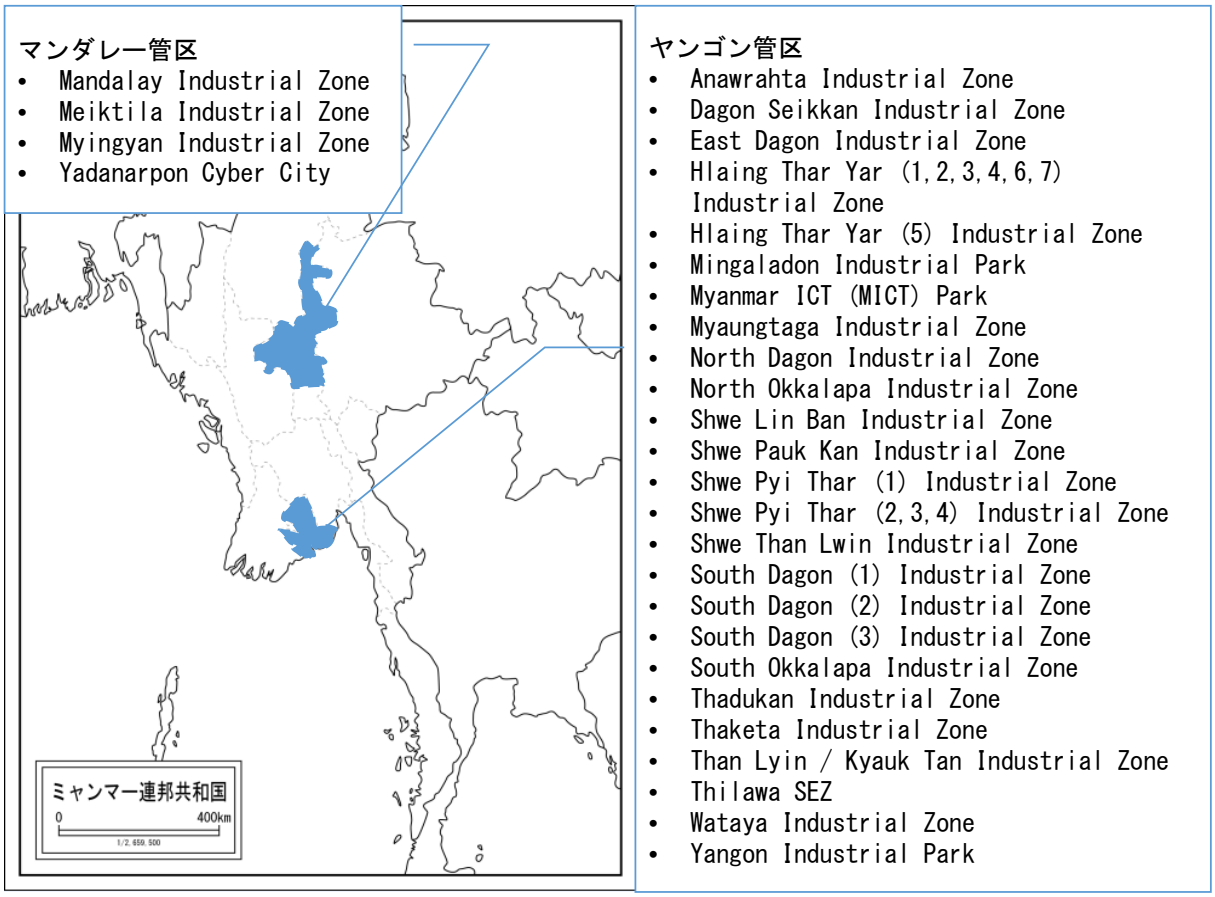


（出所）Overview of the Result of the 2014 Population and Housing Census, Myanmar (December 2017) より作成

6. 工業団地の分布

ミャンマーには数多くの工業団地が存在するが日系企業が入居している工業団地は限られている。日系企業が多く立地する工業団地として、ヤンゴン管区のティラワ工業団地が挙げられ、2018年3月時点で40社以上の日系企業が進出している。

図表 24-8　ミャンマー国内の工業団地分布図



（出所）日本アセアンセンターの工業団地リストより作成

7. 治安

ミャンマーの治安情報として、外務省が以下のとおり危険情報を報告している（2018年6月末時点）。

図表 24-9　ミャンマーの治安情報

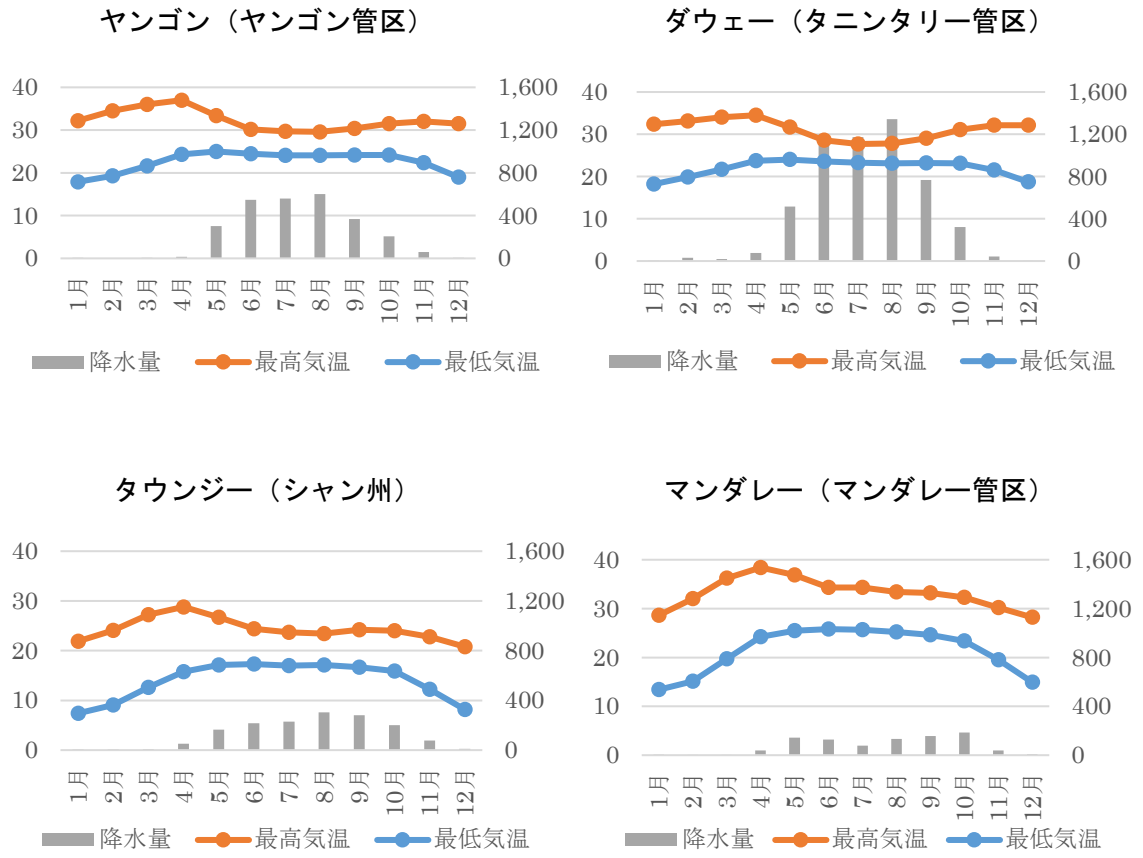
危険情報の種類	地域
レベル３：渡航は止めてください。（渡航中止勧告）	ラカイン州マウンドー県、シャン州コーカン自治地帯、カチン州ライザー周辺
レベル２：不要不急の渡航は止めてください。	カチン州（ライザー周辺を除く）、シャン州北部（コーカン自治地帯及びラショー、チャウメー、ティーボーの都市部を除く）、ラカイン州（シットウェ県、ミャウウー県、チャオピュー県）
レベル１：十分注意してください。	上記以外の地域

（出所）外務省海外安全ホームページより作成

【参考】地域別気候

ミャンマーの 3～5 月は、最も暑い季節であり紫外線も非常に強い時期となる。また、6～10 月は雨季にあたり、地域によっては 1,000mm/月を超える降水量も記録する。一方で、11～2 月は乾期にあたり、1 年で最も過ごしやすい時期となる。

図表 24-10 地域別の気温（左軸：℃）と降水量（右軸：mm）



（出所）World Meteorological Organization (WMO)より作成